

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	遠藤 耕二			
授業科目	哲学					
英 訳	Philosophy					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 人間や自然、科学文明について過去の哲学者がどう考えていたのかを学ぶ。その上で人間の価値、自然、神、科学技術についての考え方をどのように社会に活かせるかをともに考えていく。						
【授業の目的】 人間は成長するにつれ常識を身につけ、物事について考える力を養っていく。こうした常識のなりたちや物事の考え方を学ぶことで、現代社会を生きる上での手がかりを手に入れることを目指す。						
【到達目標】 ・神や自然、科学にまつわる思想の歴史を学習することで、冷静かつ論理的なものの考え方を身につける。 ・人間にかかわる異なる文化の思想を学ぶことで、異文化や異民族に属する人間への敬意を実感できる。						
【準備学習(予習・復習)】 ・授業で扱う予定の哲学者の名前や時代の特徴のほか、自然科学の歴史なども調べておくこと。 ・ノートに授業で学んだ思想の特徴と長所・短所をノートにまとめること。わからない場合は質問すること。						
【授業計画】 第 1回 哲学は何のための学問なのか 第 2回 自然という考え方はどのように生まれたのか ～哲学と科学のはじまり 第 3回 プラトンの哲学 ～知性という考え方 第 4回 アリストテレスの哲学 ～プラトンとの対決 第 5回 西洋世界は神をどう考えたのか 第 6回 デカルトの哲学 第 7回 イギリス経験論 ～科学と哲学の接近 第 8回 カントの哲学 ～人間を支えるのは感覚か知性か 第 9回 ニーチェとショーペンハウアー 哲学を見つめ直す 第10回 ハイデガーの生と死の哲学 第11回 メルロ・ポンティの身体の哲学 第12回 レヴィナスの哲学 ～他人と共に生きるために 第13回 科学と哲学 (1) 科学と哲学の関係 第14回 科学と哲学 (2) 科学的なものの考え方を学ぼう 第15回 まとめ 定期試験						
【教科書】 貫 成人『図説・標準 哲学史』（新書館）と毎週配布するプリントを併用する。						
【参考書】 柿木 伸之『共生を哲学する 他者と共に生きるために』（ひろしま女性学研究所）、 野矢 茂樹『哲学の謎』（講談社）						
【成績評価基準】 期末試験（60%）、課題提出（20%）、授業への取り組み（20%）という割合で評価する。						
【メッセージ】 哲学は難しいというイメージがありますが、その難しさの大部分は思いもよらないことを考えることの難しさにあります。この授業では考えることの面白さを実感できるものにします。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	遠藤 耕二			
授業科目	倫理学					
英 訳	Ethics					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】						
倫理学の歴史を通じて、人間が正義や善悪をどのように理解し理想の社会を考えてきたのかを見ていく。また、現代の様々な社会問題に対して倫理や道徳がどこまで有効に使えるかを考えていく。						
【授業の目的】						
道徳の大切さを教えられることがあっても「どうして道徳が存在するのか」「社会の問題に道徳が役に立つのか」を考える機会はいらない。倫理学を学ぶことで、善悪の区別や社会の中での生き方を自分なりに考えるきっかけをともに探していくのがこの授業の目的である。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・善と悪の考え方や知識を身につけ、善悪の区別を整理できる人間として生きる力を身につける。 ・社会の問題について様々な視点から冷静に考え、発言できる力を身につける。 						
【準備学習(予習・復習)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う思想家や民法などの法律についてできる範囲で調べる他、毎日のニュースに触れること。 ・授業で学んだ思想のしくみを整理し長所と短所をそれぞれノートに記す。わからない場合は質問すること。 						
【授業計画】						
第 1回 どうして倫理と道徳を考えないといけないのか						
第 2回 善とは何か・悪とは何か						
第 3回 倫理学のはじまり ～プラトンの『国家』から						
第 4回 アリストテレスと徳の倫理 ～「社会のお手本」という生き方						
第 5回 功利主義の登場						
第 6回 功利主義をめぐる議論 ～善く生きるために何が必要なのか？						
第 7回 カントの義務倫理学						
第 8回 今までをふりかえって						
第 9回 医療倫理（1）医者・看護師に求められる生き方						
第10回 医療倫理（2）生命を救い、奪う医療技術						
第11回 技術倫理（1）技術と倫理の関係						
第12回 技術倫理（2）失敗から何を学ぶか						
第13回 社会人として身につけるべき倫理とは何か						
第14回 ロボット倫理 ～人間とは何か						
第15回 まとめ						
定期試験						
【教科書】						
プリントと資料を配布し、教科書に代える。						
【参考書】						
アンソニー・ウェストン『ここからはじまる倫理』（春秋社）、児玉聡『功利主義入門』（筑摩書房）						
【成績評価基準】						
期末試験（60%）、課題提出（20%）、授業に取り組む姿勢（20%）という割合で評価する。						
【メッセージ】						
「善とはなにか、悪とはなにか」という疑問は誰もが一度は考えるものですが、学問として考えるということは滅多にないものです。現代の犯罪や問題と立ち向かう、社会人として必要な道徳をいっしょに見ていきましょう。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	橋元 純也			
授業科目	宗教学					
英 訳	Religion					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 第1回は、授業概要のガイダンスをおこなった後、宗教の要件・類型といった基礎的知識をえる。第2～11回は、民族宗教・世界宗教・新宗教といった世界の諸宗教の諸相についてまなぶ。第12～14回は、教典・儀礼・芸術・象徴・消費・メディアといったキーワードのもとにさまざまな宗教現象をとりあげ、宗教と人間または宗教と社会のかかわりについて考察する。						
【授業の目的】 宗教の要件や類型といった基礎的な知識をえた上で、①諸宗教の歴史・教義・儀式などの諸相をまなび、②宗教学の立場から現代社会の諸問題をかみかえる視点や方法を獲得し、③幅広い知識や教養をとまなうコミュニケーション能力を身につける契機とする。						
【到達目標】 宗教に関する概念・事項・事象について、基礎的な知識にもとづく正確な解説文が書ける。 ※作成文章の評価はすべてルーブリック（評価基準表）をもちいておこなう。 ※科目「宗教学」簡易ルーブリック（ http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-religion ）参照						
【準備学習(予習・復習)】 毎回配布する講義プリントの内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1回 講義概要ガイダンス／宗教の要件と類型 第 2回 民族宗教① ヒンドゥー 第 3回 民族宗教② ユダヤ教 第 4回 民族宗教③ 儒教 第 5回 民族宗教④ 神道 第 6回 世界宗教① キリスト教 前期 第 7回 世界宗教② キリスト教 後期 第 8回 世界宗教③ イスラーム 第 9回 世界宗教④ 仏教 前期 第10回 世界宗教⑤ 仏教 後期 第11回 新宗教・ニューエイジ 第12回 宗教現象① 経典と儀礼 第13回 宗教現象② 芸術と象徴 第14回 宗教現象③ 消費とメディア 第15回 期末まとめ・総合質問受付						
【教科書】 指定教科書なし。毎回、担当者がプリント資料を作成し、テキストとして配付する。						
【参考書】 講義中に必要に応じて示す。						
【成績評価基準】 毎回の提出物（100％）によって評価する。上記【到達目標】参照。						
【メッセージ】						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	中島 洋治			
授業科目	音楽の世界					
英 訳	Music History					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 第1回に授業内容についてガイダンスをおこなったうえで、第2回～第14回において、近現代の音楽について、文化的・歴史的な背景とともに取りあげていく。第15回にまとめと補足をおこなう。						
【授業の目的】 各時代の音楽様式（響きや構造の特徴）を把握しその音楽を聴いて、それがいつ頃の音楽であるか判断できることを目的とします。また音楽の文化的・歴史的な背景を理解し、その時代が音楽に何を求め、どのような場で演奏され聴かれたかを考えることも目的の一つです。						
【到達目標】 音楽史の知識はたんなる言葉の暗記に終わるのではなく、できるだけ多くの作品を時代別に積極的に聴くことで各自の知識をより奥行きのあるものにし、自分なりの意見を持つことができるようにすることが到達目標です。						
【準備学習(予習・復習)】 授業中に配布したプリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 「音楽の世界」の授業内容について説明 400年の歴史を持つ最高の「娯楽」オペラの鑑賞 第 2回 近代音楽の成立 ～J. S. Bach と G. F. Handel～ 二人の生涯と作品について解説及び鑑賞 第 3回 古典派の音楽Ⅰ ～J. F. Haydn と W. A. Mozart～ 二人の生涯と作品について解説及び鑑賞 第 4回 古典派の音楽Ⅱ Mozart を題材にした「アマデウス」のDVD鑑賞 第 5回 古典派の音楽Ⅲ 「アマデウス」のDVD鑑賞 第 6回 古典派から前期ロマン派へ 「楽聖」と呼ばれた L. V. Beethoven の生涯について 第 7回 前期ロマン派Ⅰ フランス革命が芸術にもたらしたものは？ ドイツリートについて 第 8回 盛期ロマン派Ⅱ フランス革命後の芸術（1800年以降に活躍した音楽家の解説と鑑賞） 第 9回 盛期ロマン派Ⅲ イタリア歌劇・フランス歌劇について（G. Verdi G. Puccini G. Bizet 等） 第10回 後期ロマン派Ⅳ ドイツ歌劇について（W. R. Wagner） 第11回 国民楽派の音楽 ロシア・東欧・北欧を中心とした国民主義音楽の解説と鑑賞 第12回 印象主義の音楽 C. Debussy と M. J. Ravel について解説及び鑑賞 第13回 近代の音楽 A. Schonberg と I. Stravinsky について解説及び鑑賞 第14回 20世紀の音楽 前衛的音楽（偶然音楽・具体音楽・電子音楽等）について解説及び鑑賞 第15回 「ファンタジア2000」のDVD鑑賞（コンピュータの発達によるアニメーションと音楽） まとめ及び補足						
【教科書】 私が作成したプリント資料を毎時間配布（No1～No15まで）一回のプリントは約5～8頁						
【参考書】						
【成績評価基準】 授業への取り組みによる平常点（50%）・鑑賞後の感想レポート（20%）・課題提出（30%）						
【メッセージ】 映像や音楽を聴きながら授業を進めていきますので私語は絶対に厳禁です。守られない場合は退席を指示します。また30分以上遅刻しての入室はできませんのでご了承ください。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	棚橋 久美子			
授業科目	日本の歴史					
英 訳	Japanese History					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 まず江戸時代の支配の枠組みを理解した上で、その中で生きた庶民の暮らしの実像に迫ります。						
【授業の目的】 徳川時代、幕藩時代ともよばれる江戸時代は、徳川氏による二百数十年間の長期政権が続き「天下泰平」といわれる中で、現在の私たちの生活に繋がる生活文化や生活様式が成立しました。鎖国政策ゆえに自給自足の循環型社会を作りあげていた江戸社会のあり様を理解することを目的とします。						
【到達目標】 この授業では、江戸時代のさまざまなテーマについて学びながら、歴史を捉える多角的な視点や歴史的な思考力を獲得することを到達目標にしています。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業のノートを見返し、内容を理解できたかを確認し、理解が不十分な箇所は質問して下さい。						
【授業計画】 第 1回 日本の歴史と江戸時代 第 2回 江戸時代の枠組み－石高制 1－ 第 3回 江戸時代の枠組み－石高制 2－ 第 4回 江戸時代の枠組み－身分制 1－ 第 5回 江戸時代の枠組み－身分制 2－ 第 6回 江戸時代の枠組み－鎖国 1－ 第 7回 江戸時代の枠組み－鎖国 2－ 第 8回 村と百姓 第 9回 土地の利用と農業技術の発展 第 10回 江戸時代のブランド「国産」 第 11回 貨幣と金融の制度 第 12回 衣料の大変革－木綿の登場－ 第 13回 食べる楽しみ－和食の成立－ 第 14回 暦と時刻 第 15回 まとめ 定期試験						
【教科書】 教科書は使用しません。資料は郵付します。						
【参考書】 授業の中で適宜紹介します。						
【成績評価基準】 受講態度などの平常点(30%)と期末試験成績(70%)で評価します。授業内容の理解を確認するために小テストをしますが、このテストの成績を受講態度の評価の素材の一つとします。						
【メッセージ】 「歴史の授業は覚えることばかり」と思っていないですか。この授業で「歴史は未来への決断を行うときに現状を分析する手段の一つである」ことを実感しましょう。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	棚橋 久美子			
授業科目	瀬戸内の歴史					
英 訳	History of 'Setouchi' Area					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 日本の中での瀬戸内海地域の特徴を理解した上で、瀬戸内海地域を舞台とした江戸時代以降の特色のある歴史的事象を取り上げて、地域の特性との関わりを考察します。						
【授業の目的】 人間の営みは、生活する地域の地形や気候などの自然条件によって、そのあり様が左右されます。この授業では私たちが生活している瀬戸内海地域での歴史的事象を素材にして、地域の特性を生かした生活や生産が行われていたことを理解することを目的とします。						
【到達目標】 この授業は、瀬戸内海地域のさまざまなテーマを学びながら、地域の歴史を捉える多角的な視点や地域の歴史的特質を考える思考力を獲得することを到達目標にしています。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業のノートを見返し、内容を理解できたかを確認し、理解が不十分な箇所は質問して下さい。						
【授業計画】 第 1回 瀬戸内海地域の特質 第 2回 国内交通網と瀬戸内海 第 3回 牡蠣養殖1 第 4回 牡蠣養殖2 第 5回 製塩業1 第 6回 製塩業2 第 7回 綿業1 第 8回 綿業2 第 9回 柑橋栽培1 第10回 柑橋栽培2 第11回 海外移民と広島県1 第12回 海外移民と広島県2 第13回 軍事県広島1 第14回 軍事県広島2 第15回 まとめ 定期試験						
【教科書】 教科書は使用しません。資料は添付します。						
【参考書】 授業の中で適宜紹介します。						
【成績評価基準】 受講態度などの平常点(30%)と期末試験成績(70%)で評価します。授業内容の理解を確認するために小テストをしますが、このテストの成績を受講態度の評価の素材の一つとします。						
【メッセージ】 歴史学は未来への決断を行うにあたって、現状を分析する手段の一つです。歴史を読み解く力をつけましょう。						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	橋元 純也			
授業科目	アジアの思想と文化					
英 訳	Asian thought and culture					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 第1回で授業概要のガイダンスをおこなった後、第2回に東洋文化論の基本的視座を確認する。そして第3回以降に、アジアの世界観・人間観・宗教論・政治論について、具体的な問題を取りあげていく。西洋との対比や、日本との関わりなどにも留意しながら、おもに中国の伝統的思想・文化について考察する。						
【授業の目的】 ①アジアの伝統的な思想・文化に関するさまざまな概念・事項・事象をまなび、②多面的な現代文化・世界文化を理解するための視点を獲得し、③幅広い知識や教養をともなうコミュニケーション能力を身につける契機とする。						
【到達目標】 アジアの思想・文化に関する概念・事項・事象について、基礎的な知識にもとづく正確な解説文が書ける。 ※作成文章の評価はすべてルーブリック（評価基準表）をもちいておこなう。 ※科目「アジアの思想と文化」簡易ルーブリック（ http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-asian ）参照						
【準備学習(予習・復習)】 毎回配布する講義プリントの内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1回 講義概要ガイダンス／東洋文化論の視座 第 2回 世界観① 天と道と気 第 3回 世界観② 無為と自然 第 4回 世界観③ 宇宙論 第 5回 人間観① 天性と天命 第 6回 人間観② 仁義と忠孝 第 7回 人間観③ 身体論 第 8回 宗教論① 儒教宗教説 第 9回 宗教論② 仏教と道教 第 10回 宗教論③ 鬼神論 第 11回 政治論① 災異と革命 第 12回 政治論② 礼法と公私 第 13回 政治論③ 兵法論 第 14回 東西比較文化論 第 15回 期末まとめ・総合質問受付						
【教科書】 指定教科書なし。毎回、担当者がプリント資料を作成し、テキストとして配付する。						
【参考書】 講義中に必要に応じて示す。						
【成績評価基準】 毎回の提出物（100％）によって評価する。上記【到達目標】参照。						
【メッセージ】						

区 分	教養教育科目－人文科目	担当教員	平瀬 洋子			
授業科目	アメリカの文学と歴史					
英 訳	American History through Literature					
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 大学生としての教養と英語の読解力を高めるために、アメリカ文学を通してアメリカの歴史を学習する。						
【授業の目的】 アメリカ文学の作品を通して、アメリカの歴史を再認識し、各時代の社会背景、文化、及び人々の生活や物に対する考え方を学習すること。						
【到達目標】 アメリカ文学の作家や作品の時代背景が、理解できるようになること。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：分からない単語は辞書で調べて、テキストを読んでおくこと。 復習：授業内容が理解できているか、確認すること。						
【授業計画】 第 1回 授業の進め方の説明とグループ分けについて 第 2回 O. Henry と作品の紹介について 第 3回 作品講読と時代背景について 第 4回 練習問題とまとめ 第 5回 Mark Twain と作品の紹介について 第 6回 作品講読と時代背景について 第 7回 Ralph Waldo Emerson と作品の紹介について 第 8回 作品講読と時代背景について 第 9回 Ernest Hemingway と作品の紹介について 第 10回 作品講読と時代背景について 第 11回 練習問題とまとめ 第 12回 F. Scott Fitzgerald と作品の紹介について 第 13回 作品の講読と時代背景について 第 14回 練習問題とまとめ 第 15回 映画化された <i>The Great Gatsby</i> について 定期試験						
【教科書】 Let's Learn English from American Literature 編注者：早瀬 博範 他 発行所：英宝社						
【参考書】 必要に応じて、授業で紹介する。						
【成績評価基準】 課題（レポートを含む）：30%、 授業への取り組み：20%、 期末試験：50%						
【メッセージ】 毎時間、授業にはテキスト、配布されたプリント、辞書を持参すること。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	水落 亮平			
授業科目	心理学 I					
英 訳	Psychology I					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 ヒトは、自分を取り囲む環境から様々な情報を取り入れ、それを基に思考・行動し、知識・経験を積み上げることで適応する。本講義は知覚、学習、記憶、性格といった側面から行動と環境との関わりについて理解し、「心」の学問を概観する。						
【授業の目的】 ヒトの心理や行動の基礎となる原理を学び、心理学が解明しようとする心について理解する。						
【到達目標】 ヒトの心理や行動の基礎となる原理について理解し、心理学がどのような学問かを知る。						
【準備学習(予習・復習)】 授業内容について配布資料や確認テストを用いて復習しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション、心理学とは 第 2回 心と体のつながり 第 3回 感覚と心理 第 4回 知覚と心理 第 5回 言語・文字と心理 第 6回 確認テスト、学習の基本原則 I 第 7回 学習の基本原則 II 第 8回 記憶と心理 I 第 9回 記憶と心理 II 第 10回 確認テスト、記憶の変容 第 11回 記憶の変容の事例 第 12回 動機づけ・情動と心理 I 第 13回 動機づけ・情動と心理 II 第 14回 パーソナリティと心理学 第 15回 確認テスト、まとめ 定期試験						
【教科書】 講義ごとに配布資料を用意する。						
【参考書】 適宜指示する。						
【成績評価基準】 期末試験（100％）によって評価する。						
【メッセージ】 15回の講義を通して、心理学における「心」とは何か、を少しでも感じてもらえれば幸いです。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	水落 亮平			
授業科目	心理学 II					
英 訳	Psychology II					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 ヒトは、自分を取り囲む環境から様々な情報を取り入れ、それを基に思考・行動し、知識・経験を積み上げることで適応する。本講義は知覚、学習、記憶、性格といった側面から行動と環境との関わりについて理解し、「心」の学問を概観する。						
【授業の目的】 ヒトの心理の発達や対人行動の基礎となる原理を学び、自分と他者を理解する導入とする。						
【到達目標】 ヒトの心理の発達や対人行動の基礎となる原理について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 授業内容について配布資料や確認テストを用いて復習しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 生涯発達 第 3回 乳幼児の定型発達と非定型発達 第 4回 青年期の心理 第 5回 確認テスト、非定型発達を理解する 第 6回 非定型発達を理解する 第 7回 社会と心理：対人的影響 第 8回 社会と心理：集団 第 9回 社会と心理：対人認知 第10回 確認テスト 第11回 社会と心理：これまでのまとめ 第12回 社会と心理：原因帰属 第13回 動機づけ 第14回 犯罪心理学：万引きの例に 第15回 確認テスト 定期試験						
【教科書】 講義ごとに配布資料を用意する。						
【参考書】 適宜指示する。						
【成績評価基準】 期末試験（100％）によって評価する。						
【メッセージ】 15回の講義を通して、心理学における「心」とは何か、を少しでも感じてもらえれば幸いです。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	村上 智章			
授業科目	政治学 I					
英 訳	Politics I					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 戦後日本政治史について、宰相（総理大臣）に焦点を当て、その個人史を政治・経済史との関連において検討する。						
【授業の目的】 戦後日本政治が直面した様々な課題に政治家がどのように応答していったのかを学び、現代日本政治について政治学的に考える力を涵養する。						
【到達目標】 ・戦後日本政治史について学習し、戦後日本政治の課題を理解する。 ・戦後日本政治の展開について、具体的に理解する。 ・歴史的背景を理解しながら政治を見る目を養う。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと。 ・前回の講義中に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。 ・授業の要点をまとめること、ノート・配布プリントを整理し、内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 はじめに 戦後日本政治を考える。 第 2回 戦後日本政治の出生 吉田茂① 第 3回 戦後日本政治の出生 吉田茂② 第 4回 55年体制の成立 鳩山一郎 第 5回 60年安保から高度経済成長へ① 岸信介 第 6回 60年安保から高度経済成長へ② 池田勇人 第 7回 60年安保から高度経済成長へ③ 佐藤栄作 第 8回 高度経済成長の終わり ① 佐藤栄作 第 9回 田中角栄とその時代 ② 田中角栄 第10回 田中角栄とその時代 ② 田中角栄・三木武夫 第11回 経済大国日本へ ① 福田赳夫 第12回 経済大国日本へ ② 大平正芳 第13回 バブルの発生と崩壊 ① 鈴木善幸・中曽根康弘 第14回 バブルの発生と崩壊 ② 中曽根康弘 第15回 まとめ						
【教科書】 石川真澄・山口二郎『戦後日本政治史 第3版』岩波新書ISBN978-4-00-431281-9 C0231						
【参考書】 適宜指示する。						
【成績評価基準】 毎回の講義で提出を求めるコメントペーパーの内容 (50%) ・レポート (50%)						
【メッセージ】 コメントペーパーを通じた、あるいは直接の質問を歓迎します。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	井上 幸希			
授業科目	政治学 II					
英 訳	Politics II					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 現代政治を支える仕組みや制度を中心に引き上げ、今後、社会人として政治について自分なりに考える力を身につけることができるように、基礎から説明します。						
【授業の目的】 政治学の様々な理論枠組みとその前提となる考え方を理解し、日本だけでなく各国の政治制度を理解することを目的とします。						
【到達目標】 政治学の基礎的知識を修得し、現代の政治と社会に対する考え方や感覚を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 事前に教科書を読んでおいて下さい(毎回、講義後に読んでおく所を指定します)。また、講義後は毎回教科書および講義ノートを見直し、分からないところは質問に来て下さい。						
【授業計画】 第 1回 政治とは何か 第 2回 近代国家の原理と制度 第 3回 権力分立制について 第 4回 現代の政治体制について 第 5回 日本の統治システムについて①(国会と立法) 第 6回 日本の統治システムについて②(内閣と行政) 第 7回 政党とは何か 第 8回 日本の選挙制度①(民主的な選挙の原則について) 第 9回 日本の選挙制度②(現在の日本の選挙制度について) 第 10回 日本の選挙制度③(議員定数不均衡をめぐる訴訟について) 第 11回 平和と安全保障 第 12回 憲法9条の解釈 第 13回 憲法9条の裁判例、自衛隊の活動について 第 14回 集団的自衛権について 第 15回 まとめ 定期試験						
【教科書】 ・池尾靖志・佐藤史郎・上野友也・松村博行『はじめての政治学』(法律文化社、2014年)						
【参考書】 講義中に随時、紹介します。						
【成績評価基準】 期末試験70%、学修への姿勢30%で評価します。なお、学修への意欲が良好な場合は積極的に評価しますが、学修への姿勢が不良な場合は減点対象となります。						
【メッセージ】 この講義をきっかけにして、少しでも政治学に対する関心を持ってもらいたいです。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	西手 満昭			
授業科目	経済学 I					
英 訳	Economics I					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 ミクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、家計・企業の行動、需供均衡、市場のしくみなどの基礎的理論についての解説を中心に講義を進める（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含む）。						
【授業の目的】 本講義では、ミクロの視点に基づいた経済理論を通じて、実際の経済問題（消費者行動や企業の目的、市場機構など）を考察し把握するとともに、ミクロ経済学の基礎を修得する。						
【到達目標】 ミクロ経済学の考え方を身につけ、経済に関連したニュースやトピックスを含めた様々な経済現象を理解できるようにすることを目標に据える。						
【準備学習(予習・復習)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の講義予定に該当する資料に目を通し、不明点をチェックしておくこと ・ 授業の要点をまとめ、与えられた課題をまとめること ・ 前回の授業内容を復習し理解しておくこと、不明点は質問すること ・ Webページで公開する資料やノート等を整理し内容を理解すること 						
【授業計画】 第 1回 講義概要について 第 2回 経済学, ミクロ経済学とは 第 3回 家計の行動① ～最適消費計画～ 第 4回 家計の行動② ～価格効果～ 第 5回 企業の行動① ～利潤最大化計画～ 第 6回 企業の行動② ～供給曲線の導出～ 第 7回 完全競争市場① ～需給ギャップの調整過程～ 第 8回 完全競争市場② ～余剰分析・パレート効率性～ 第 9回 不完全競争① ～独占～ 第 10回 不完全競争② ～複占・寡占～ 第 11回 不完全競争③ ～ゲーム理論・参入阻止過程～ 第 12回 市場の失敗① ～公共財・外部経済～ 第 13回 市場の失敗② ～情報の非対称性・所得分配など～ 第 14回 国際貿易 ～自由貿易と保護貿易・国際分業と比較優位～ 第 15回 講義のまとめ 定期試験						
【教科書】 使用しません。ただし、講義の際に使用するパワーポイントのスライドを以下のWebページにて公開しますので、各自でダウンロード・プリントアウトして活用してください。(http://hopespringseternal.web.fc2.com/)						
【参考書】 N. グレゴリー マンキュー『マンキュー入門経済学(第2版)』足立英之訳, 2014年, 東洋経済新報社。その他は、講義の際に適宜紹介します。						
【成績評価基準】 期末試験(70%), 小テスト(10%), 授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】 講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定であるので、日々の出来事(特に経済に関するもの)に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにしてください。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	西手 満昭			
授業科目	経済学 II					
英 訳	Economics II					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 マクロ経済学の基礎的概念（経済学を学ぶ上で必要な用語・考え方など）や、GDP、国民所得の決定、投資、財政・金融政策、IS-LM分析、雇用の決定、国際マクロ経済学などの基礎的理論についての解説を中心に講義を進めていく（図や簡単な数式を用いた経済現象の解説を含む）。						
【授業の目的】 本講義では、マクロの視点に基づいた経済理論を通じて、実際の経済問題（景気動向、失業問題、アベノミクスなど）を考察し把握するとともに、マクロ経済学の基礎を修得する。						
【到達目標】 マクロ経済学の考え方を身につけ、経済に関連したニュースやトピックスを含めた様々な経済現象を理解できるようにすることを目標に掲げる。						
【準備学習(予習・復習)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の講義予定に該当する資料に目を通し、不明点をチェックしておくこと ・ 授業の要点をまとめ、与えられた課題をまとめること ・ 前回の授業内容を復習し理解しておくこと、不明点は質問すること ・ Webページで公開する資料やノート等を整理し内容を理解すること 						
【授業計画】 第 1回 講義概要について 第 2回 マクロ経済学の基礎的概念の把握① 第 3回 マクロ経済学の基礎的概念の把握② 第 4回 国民所得の決定① ～45度線分析・乗数プロセス～ 第 5回 国民所得の決定② ～インフレギャップとデフレギャップ・総需要管理政策～ 第 6回 投資需要の決定 ～利子率と債券価格・投資関数～ 第 7回 貨幣の需要と供給① ～中央銀行の役割・信用創造～ 第 8回 貨幣の需要と供給② ～金融政策～ 第 9回 IS-LM 分析① ～IS 曲線と LM 曲線～ 第 10回 IS-LM 分析② ～政策効果の IS-LM 分析～ 第 11回 IS-LM 分析③ ～マネタリズム～ 第 12回 雇用の決定① ～労働市場～ 第 13回 雇用の決定② ～AD-AS 分析・フィリップス曲線～ 第 14回 国際マクロ経済学① ～国際収支統計・為替レート～ 第 15回 国際マクロ経済学② ～開放経済下における政策効果～ / 講義のまとめ 定期試験						
【教科書】 使用しません。ただし、講義の際に使用するパワーポイントのスライドを以下のWebページにて公開しますので、各自でダウンロード・プリントアウトして活用してください。（ http://hopespringseternal.web.fc2.com/ ）						
【参考書】 N. グレゴリー マンキュー『マンキュー入門経済学（第2版）』足立英之訳，2014年，東洋経済新報社。その他、講義の際に適宜紹介します。						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、小テスト(10%)、授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】 講義の際には、ニュース・トピックスなどの事例も紹介していく予定であるので、日々の出来事（特に経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにしてください。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	井上 幸希			
授業科目	日本国憲法					
英 訳	The Japanese Constitution					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 国民主権、平和主義と共に、立法・行政・司法等の仕組み(統治機構)と基本的人権の保障について、日本国憲法の全体像が理解できるよう、下記の計画に沿って授業を進める。						
【授業の目的】 「憲法とは何か」「日本国憲法はどのような基本原理の下にあるのか」を学び、それが具体的に実社会や我々の生活にどう関連しているかを、裁判例や学説等を基に考えることによって憲法への理解を深める。						
【到達目標】 日本国憲法が保障する基本的人権についての理解を深め、社会の一員としての人権感覚を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回事前に教科書および配付資料を読んでおくこと。復習としては、配付資料および講義ノートを見直し、分からないところは質問にきて下さい。						
【授業計画】 第 1回 法とは何か、憲法とは何か 第 2回 憲法の歴史的発展過程(立憲主義について) 第 3回 明治憲法と日本国憲法(明治憲法の特徴、日本国憲法の成立過程、日本国憲法の基本原理) 第 4回 権力分立制①(国会、衆議院と参議院、両議院の活動、国会の権能、議院の権能) 第 5回 権力分立制②(内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、総理大臣と国務大臣、内閣の権能と責任) 第 6回 権力分立制③(裁判所、司法権の限界、司法権の独立、違憲審査制) 第 7回 基本的人権について(基本的人権とは何か、基本的人権の限界、基本的人権の私人間適用) 第 8回 法の下での平等(平等の意味) 第 9回 平等原則をめぐる重要判例(尊属殺重罰規定違憲判決、非嫡出子相続分規定違憲判決等) 第10回 思想・良心の自由、信教の自由(政教分離原則について) 第11回 表現の自由(表現の自由の価値、検閲禁止の原則) 第12回 幸福追求権(プライバシーの権利、自己決定権) 第13回 生存権(生活扶助等) 第14回 平和主義の理念①戦争と平和の世紀、9条の解釈、戦争の放棄、戦力の不保持 第15回 平和主義の理念②自衛権について、9条と自衛隊、自衛隊の活動範囲及びまとめ 定期試験						
【教科書】 ・横藤田誠・中坂恵美子『人権入門』(法律文化社、2011年) ・補足説明用に適宜プリントを配付する。						
【参考書】 ・憲法への招待(渋谷秀樹著、岩波新書) ・憲法第5版(芦部信喜著、岩波書店) ・はじめて学ぶやさしい憲法(長尾一紘 著、実務教育出版)						
【成績評価基準】 期末試験80%、学修への姿勢20%で評価します。なお、学修への意欲が良好な場合は積極的に評価しますが、学修への姿勢が不良な場合は、減点対象となります。						
【メッセージ】 憲法と聞くと「難しい!」と思われがちですが、そんなことはないですよ。気軽な気持ちで受講して下さい。						

区 分	教養教育科目－社会科目	担当教員	井上 幸希			
授業科目	法律学					
英 訳	Law					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 まず法とは何か、法がどのように発展したのかについて理解する。その上で、刑法と刑事訴訟法の基礎や、民法（特に契約法・親族法に重点をおく）の基礎、そして、憲法では統治機構の基礎や憲法によって保障されている基本的人権について学修する。						
【授業の目的】 この授業の目的は、私たちの生活とかわりのある法律の基礎知識を修得することにある。憲法、民法、刑法などの法律が、私たちの日常生活において、どのような役割を果たしているのかを知り、自ら考える力を身につけてもらいたい。						
【到達目標】 私たちの生活とかわりのある法律の基礎知識を修得し、自ら考える力を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 教科書および配付資料を読んで次回の講義に備えること。また、復習として講義ノートおよび配付資料を見直すこと。日頃から、新聞やテレビ、インターネットにより法律に関わる情報を得るように心がけて下さい。						
【授業計画】 第 1回 法とは何か 第 2回 犯罪と法① (刑罰とは何かについて) 第 3回 犯罪と法② (刑事訴訟法の基礎について) 第 4回 財産関係と法① (不法行為と損害賠償について) 第 5回 財産関係と法② (契約法を中心に) 第 6回 財産関係と法③ (クーリング・オフ制度など消費者保護を目的とした制度について) 第 7回 家族関係と法① (親権、扶養義務等について) 第 8回 家族関係と法② (嫡出推定、非嫡出子をめぐる問題について) 第 9回 家族関係と法③ (法律婚と事実婚、再婚禁止期間など婚姻に関する憲法問題について) 第 10回 家族関係と法④ (離婚について) 第 11回 近代国家と憲法 第 12回 権力分立制と人権保障 第 13回 基本的人権① (基本的人権の基礎) 第 14回 基本的人権② (法の下での平等、表現の自由、自己決定権について) 第 15回 基本的人権③ (生存権、参政権等について) 定期試験						
【教科書】 ・松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫著『はじめての法律学 HとJの物語』(有斐閣アルマ、2014年)						
【参考書】 ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』(有信堂高文社、2013年)						
【成績評価基準】 期末試験80%、学修への姿勢20%で評価します。なお、学修への意欲が良好な場合は積極的に評価しますが、学修への姿勢が不良な場合は減点対象となります。						
【メッセージ】 法律と聞くと「難しい!」と思いがちですが、そんなことはありません。私たちの生活と法律とは密接に関係しています。気軽な気持ちで講義を受けて下さい。						